

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170100691		
法人名	社会福祉法人 あすなろ会		
事業所名	グループホーム 高草あすなろ		
所在地	鳥取県鳥取市大桺330		
自己評価作成日	令和7年11月13日	評価結果市町村受理日	令和8年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.wam.go.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いなば社会福祉評価サービス
所在地	鳥取県鳥取市湖山町東2丁目164番地
訪問調査日	令和7年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は長閑な田園地帯に位置し、デイルームの窓から紅葉する木やその日の天候等を視覚で感じられる環境となっている。利用者と一緒に作品作りに取り組み、地域の2ヶ所の公民館祭に出展する事が恒例となっている。地域の方は毎年楽しみにされており、利用者の方の意欲に繋がっている。古くから家庭で行われてきた季節の習慣を大切にして、積極的に行事として取り入れている。利用者が加齢等により人生の終末期の状態を迎えた時、利用者本人が望む場所で最期まで暮らす事が出来るように看取りに関する指針を策定し、併設施設の医療職や家族と連携しながら可能な限り対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本事業所は 田園地帯の自然豊かな立地にあり、併設の特別養護老人ホーム、短期入所、居宅介護支援、通所介護サービス等の施設と協力しながら施設運営されている。利用者がより良く暮らすため、管理者、計画作成担当者をはじめ、どのスタッフも、初心を忘れず、日々の気付きを大切にしながら プライドを持って職務にあたられている。利用者の高齢化により、ケアの難易度も高くなっているが、人生の終末期に近くなった時、本人が望む場所で最期まで暮らせるように、看取りに関する指針、医療現場、家族との連携をしっかりとすることで、可能な限りの対応を目指されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の 人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が 増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I.理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員必携にファイルしてあり、玄関にも理念を掲示している。いつでも確認して実践出来るように、職員は名札の裏に入れ携帯している。また、介護士会開催時に復唱している。	あすなろ会全体の理念でもあるグループホームの理念は、玄関に掲示されるとともに、職員必須にファイルしてあり、職員は名札の裏に入れ携帯されている。また、毎月の介護士会(スタッフ会議)にて復唱し、常に意識し実践に繋がられている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と一緒に作成した作品を、地域の2ヶ所の公民館祭に出展する事が恒例となっており、地域の方は毎年楽しみにされている。今年は、地区の運動会に参加して交流ができた。	公民館祭に出展した干支のちぎり絵をデイルームの壁に展示され、年末近くになると次年の干支を利用者とともに作成されている。恒例の出展も利用者の生きがいの一つに繋がっているように思われる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1回発行している広報紙に、認知症に関連した実践内容を掲載している。理解や支援に繋がるように、公民館へ直接持参して関係づくりに努めている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催。提供しているサービスを、利用者や地域の代表、鳥取市や鳥取高草地域包括支援センターの職員、他のグループホーム管理者に報告。意見や助言をもとにサービスの向上に活かしている。	委員からの様々な意見や助言があるが、立地場所によるのか、特に食を大切にするアドバイスが多く、職員は実践に移しサービスの向上に努められている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市担当者、地域包括支援センター職員、有識者の方々が参加しており、事業所の活動報告及び現状を報告し、協力関係が築けるようにしている。	活動報告及び利用者の現状を説明し、地域包括支援センターからのアドバイスや、その他の会議参加者からの意見をもらい、協力関係を築かれている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に貸与されている職員必携に、「身体拘束ゼロ宣言」と「身体拘束適正化に対する指針」が盛り込まれており、日々のケアに活かしている。併設施設との委員会に出席し、施設全体で内容の検討や確認をしている。	併設施設との委員会の内容をグループホームスタッフに伝えられ、年2回の全体会でも、内容の検討や確認をされている。
7		○虐待の防止の徹底	全ての職員に、自己点検チェックシートを年	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2回配布。無記名で提出し部署ごとに集計。虐待防止委員会で検討して、見過ごされる事が無いようにしている。虐待防止の標語を掲示し啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	4月の介護士会で、権利擁護に関する制度の研修を行い、必要に応じて活用できるようにした。3月に全体会にて、倫理及び法令遵守の勉強会を行う予定。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて丁寧な説明をする事を心掛け、理解して頂くようにしている。後日、不明な点があれば、いつでも説明させていただくことも伝えている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にサービス担当者会議を行い、利用者・家族の意見や要望を確認し、ケアプランに反映させている。無記名の家族アンケートを毎年実施し、集計結果を事業所内に掲示し公表。運営推進会議にて報告。	基本的なケアプランの見直し時期はあるが、利用者の高齢化等により、ケアプランの見直しが増えている。その都度、的確に迅速に反映されている。家族アンケートを毎年行い、結果は施設内に掲示されている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の人事考課時、管理者は職員と面談。意見を直接聞き反映している。法人は、全ての職員対象に、年1回自己申告書を事務局あてに直接提出する事で、上司に言えない事でも意見を聞く機会を設けている。	年2回の人事考課の際、管理者は職員と面談し、意見を聞き運営に反映されている。また、職員が直接、自己申告書をあすなろ会本部に提出することで、自身が仕事に関して感じていることや、今努力している事等の自己アピールができ、反映がしやすい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課時に個別に話を聞き、やる気や向上心を持って働けるようにサポートしている。また、安全衛生委員会による職員アンケートにて職員の意見を吸い上げ、働きやすい職場環境にしている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修や職員の習熟度に応じた研修を法人が実施している。毎年、法人の事例発表があり、自分たちのケアを見つめ直す機会となっている。参加していない職員に対し、伝達講習をする事で周知している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員間の相互研修や管理者によるネットワークの会を開催していたが、コロナ禍により実施出来ず。管理者と他事業所の管理者は、運営推進会議の委員として相互に出席しており、相談可能な機会となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に実態調査を行い本人・家族と面談して情報収集し要望等の把握に努め、本人が新しい環境で不安を少しでも軽減出来るようにしている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事や要望等を聞き、情報を整理した上で、信頼関係が築けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態を確認した後、家族を交えて、グループホームと他のサービス内容を説明し、適切な支援に繋がる様にしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を見極め、本人の能力に応じ出来る事を依頼し、一方的ではなく役割を持って生活できるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が居室内で面会を行っている。2か月に1回広報紙を送付し、近況報告を行っている。また、通院介助を依頼したりと家族と共に支え合う関係づくりに努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に、必要物品の持参や受診の付き添い等、役割を持ってもらい、出来るだけ来所してもらえるように工夫している。	現在入所の利用者や、その相手の馴染の人ともに高齢化で、電話等での支援も困難になってきているが、家族に役割を持ってもらうことで来所してもらうよう工夫されている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性に配慮した席となるよう留意したり、レクリエーションなどを通じて共同作業をして頂くことで、お互いの関係性が築けるような内容のサービス提供に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、併設施設に入所になっても利用者が時々訪ねて来られ、なじみの関係が継続している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を聞きながら、自分のペースで生活出来るように心掛けている。言語的コミュニケーションが図れない利用者については、生活歴、家族からの希望・要望を基に支援している。	家族からは来所の際に聞き取りをし、利用者へは声掛けの工夫をしながら、本人本位の支援を心掛けられている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所にあたり、その人らしい生活をして頂けるよう、介護支援専門員が本人・家族から生活歴、趣味、習慣等、生活背景に関する聞き取りを行いフェイスシートを作成している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課計画表はあるが、画一的な対応ではなく、本人のリズムやその日の体調によって日々、過ごし方を変えている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族からの聞き取り、毎月の介護士会で話し合い経て利用者の現状、要望に沿った介護計画を作成している。月に1回モニタリングを実施し、現状に即したサービスが提供できるように努めている。	部屋担当者の月1回のモニタリングでプラン作りをするが、現在は利用者の高齢化で課題が変わりやすい。現状に即したサービス提供に努められている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活、言動、特変時の詳細を介護ソフトウェアの各項目に入力している。それを基に、介護士会でケアの方針や意見交換を行い、モニタリングや計画の見直しをしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	栄養面では管理栄養士、医療面では看護師、ベッドの位置等の環境面では理学療法士というように、併設施設の専門職と連携し柔軟な支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館行事に参加して地域の方と交流したり、関連事業所の行事にも参加してる。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を尊重して、かかりつけ医を決めている。受診時は、適切な医療を受けられるように情報提供している。感染症や寒い時期を考慮して、往診可能な医師を希望される家族には対応している。	本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。外部受診は家族同行が基本だが、車椅子利用の利用者については専用車にて送迎されている。受診の際は利用者の普段の様子等を情報提供される他、嘱託医による往診も対応され、適切な医療を受けられるよう支援されている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に、併設施設の看護職員に報告・相談をして連携している。状態の変化があれば報告して指示を受け、受診に繋がる事もある。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院へ情報提供し、適切な治療と早期の退院に向けて関係者と連携取れるようにしている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り(終末期)に関する指針があり、入所時に説明をしている。状態に変化があれば、事業所で出来る事出来ない事の説明を再度家族に説明して、より良い支援となる様に取り組んでいる。	「重度化対応及び看取りに関する指針」を作成し、入所の際に事業所で出来る事、出来ない事を説明されている。看取りに関するマニュアルがあり、介護士会で研修が行われている。看取りはある。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルが整備されており、緊急時の対応に関する研修を9月の介護士会で実施した。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成。6月と10月に訓練を実施。10月の訓練は夜間を想定して、19:00に利用者も外に避難した。地域の豊実分団(副団長)も参加され講評頂いた。	防災マニュアルを作成し全職員が周知している。6月は日中、消火器を用いたの消火訓練。10月は夜間に、夜間想定での避難訓練を 利用者も参加して実施された。地域の消防団の方からアドバイスをもらわれ今後の課題と改善点について話し合われ協力関係を築かれている。備蓄はある。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員を対象とした虐待の自己点検チェックを実施後、部署ごとに集計。虐待防止委員会で内容を検討し、人格尊重やプライバシーの確保についても確認した。	法人全体で、全職員に無記名で自己点検チェックシートの記入を実施し、虐待防止委員会で問題点をチェックし改善点を話し合い、研修内容を検討されている。また、定期的に虐待防止についての標語を作成し、施設内に掲示されている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の関わりの中から本人の思いをくみ取り、能力が発揮出来るような働きかけをする事で自己決定に繋げている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分、体調に考慮しながら活動への参加の声掛けを行い、本人の希望に沿った支援をしている。本人のペースを大切にし、出来る事・出来ない事を職員間で話し合いながら個々に応じた支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの時は好みの服を選んで頂いている。カットやカラーリングも希望に沿って支援している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の能力に応じて、一緒に料理の盛り付け等利用者に役割を持って頂き職員と共に行っている。また、ちまき・干し柿・餅つき等の季節行事を実施している。	食事は併設特養の管理栄養士による献立にて提供されている。利用者の出来ることを手伝ってもらえながらテーブル拭き等、後片付けを一緒に行われている。食器類(茶碗・湯呑み・箸)は個々の好みの物を家族に準備してもらわれ、季節ごとのおやつ作りや行事食作り等を通して食事が楽しみなものとなるよう工夫されている。訪問当日は利用者と共に作られた干し柿をいただいた。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や1日の水分量を記録し、水分量が足りない方には好みの飲み物を提供している。ナリコマの献立は隣接する特養の管理栄養士に確認してもらい、栄養価を考慮したメニューとなっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	能力に応じて声掛けや介助を行い、毎食後口腔ケアをしている。週に1回、義歯洗浄剤を使用して清潔保持に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声掛けしながらトイレでの排泄を支援している。毎月の介護士会で排泄の見直しを行い、使用する排泄用品を検討。必要に応じてポータブルトイレも使用している。	チェックシートにて個々の排泄パターンを把握し、タイミングを見ながら声掛けされている。毎月の介護士会で利用者ごとの排泄支援について話し合い、必要に応じて安全性を第一に考え、ポータブルトイレやおむつ利用を検討し、全職員が周知されている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量が不足する場合、家族と連携を取り本人の好みの物を依頼している。毎日、ラジオ体操やリハビリ体操へ参加できる様に支援しながら、身体を動かす機会を作り、便秘の予防に努めている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、本人の体調や気分により柔軟に対応している。温泉の入浴剤を使用し旅行気分になってもらったり、近所の方から柚子の差し入れ時、浴槽に浮かべ季節感を味わって頂いている。	入浴は個浴(リフト浴)にて日中行われ、週2回は入浴できるよう支援されている。本人の体調やその日の気分によっては無理強いせず、日にちや人を替えて対応されている。また、入浴剤やゆず湯でリラックスして入浴が楽しめるよう工夫されている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で静養が必要であったり、昼寝の習慣がない人もあり、生活習慣を尊重している。夜間帯は、一人ひとりに応じた温度や照明により、安眠出来るようにしている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師や主治医に報告や相談をしている。処方箋をケース記録に綴り、薬の効能・副作用について職員が理解が出来るようにしている。服薬を確実に行為、施設が管理している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭きや掃き掃除、洗濯物たたみ等の軽作業を依頼することで、役割を持って生活できるように支援している。レクリエーションや行事を通じて、気分転換や楽しむ機会を作っている。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺であれば、健康状態、その日の天候等を考慮した上で、散歩、日光浴による外出を行っている。家族希望の、外出・外食の受け入れも制限なく行っている。	個々の体調や天候を見ながら、施設周辺の散歩や玄関前で日光浴をしたり、併設施設内の衣類乾燥機利用の際に利用者も一緒に行かれる等、日常的にグループホームの外に出かける機会を持たれている。また、併設の高草ふれあいセンターに出かけ交流される他、家族との外出・外食支援も行われている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金の所持を希望される利用者はなく、所持したり使う場面もなく支援をしていない状況である。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかってきた時、取次している。手紙のやり取りの支援は出来ていない。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に作成した作品を壁面や居室入口に展示して、季節を味わっていただいている。デイルームの窓から、紅葉する木やその日の天候等を視覚で感じられる環境となっている。	共用の空間は掃除が行き届き、加湿器・室温計にて空調管理され、快適な空間となっている。壁には利用者と共に作成し地区の公民館祭に出展された干支の飾りや、季節ごとの飾りが飾られている。窓の外に広がる季節の木々の変化や天気の移り変わりを感じながら、ゆっくりと穏やかな時間を過ごされている様子がうかがえる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時や休息したい時は居室に行かれたり、寂しいからとデイルームで気の合う利用者と過ごされる事もある。デイルームが見渡せるソファは、居場所として使えるような環境づくりをしている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、家族に説明して、自宅で使用されていた馴染みの物を持参して頂き、居心地よく過ごして頂けるように工夫している。	居室はエアコン、洗面台、クローゼットが設置され、清掃、換気を適宜行ない清潔に保たれている。室内にはテレビやタンス、家族写真、ベッドや寝具等、利用者が使い慣れた馴染みの物が持ち込まれ、安心して過ごせるよう配慮されている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の出来る事を理解し、その人の能力に応じた生活を送って頂けるよう介護士会で検討をしている。また、自分の居室がわかるように表札を設置している。	

-)です。]

Ⅵ
次のステップに向けて期待したい内容

五
次のステップに向けて期待したい内容

五
次のステップに向けて期待したい内容

五
次のステップに向けて期待したい内容

五
次のステップに向けて期待したい内容

五
次のステップに向けて期待したい内容
急変時における対応についての確認書を作成され、より良い支援に向けて取り組まれることを期待します。

五
次のステップに向けて期待したい内容

五
次のステップに向けて期待したい内容

五
次のステップに向けて期待したい内容